



代表質問

令和7年2月21日の各党(会)派代表による代表質問では、次の議員が質問を行いました。各議員の質問の中からピックアップし、その要旨を掲載します。

CHECK!



白熱議論を映像でご覧ください!

各議員の横にある二次元コードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることができます

2月21日(金) 自由民主党 (132分)



井下 泰伸 自由民主党 (伊勢崎市)

▶中小零細企業の賃上げ等への支援について

Q 物価高や人手不足により、経営に余裕がなくとも防衛的な賃上げを行わざるを得ない中小零細企業に県の支援が必要と考えるがどうか。

A 知事 30億円の予算を投じた新たな施策「ぐんま賃上げプロジェクト」を実施する。令和7年4月以降に5%以上の賃上げをした中小企業等に、最大100万円の支援金を給付し、将来への投資として大胆に賃上げする企業の挑戦を応援する。また、下請け企業が価格交渉しやすい環境整備も進める。中小企業の稼ぐ力を強化し、「賃金と消費の好循環」を作り出し、「県民幸福度の向上」の実現を目指してまいりたい。

▶ヤード^(※1)条例制定に向けた知事の決意について

Q 県民の不安感の高まりへの対応として、ヤード設置の規制が必要と考えるが、ヤード条例制定に向けた知事の決意を伺いたい。

A 知事 ヤードの増加に伴う不安感には様々な原因があり、軽減には幅広い対応が必要である。条例制定の検討において、生活環境への影響については、国で現在検討している廃棄物処理法改正等による制度的措置や関連法令との整合に留意した内容とする必要がある。これらを踏まえ、有効な規制の骨子案について県議会のご意見もいただきながら、条例制定に向けてしっかりと進めてまいりたい。



伊藤 清 自由民主党 (安中市)

▶上毛かるたについて

Q 「やるぞ!バズるぞ!上毛かるたプロジェクト」について、知事の想いを伺いたい。

A 知事 昨年実施した県民アンケートでは、上毛かるたの読み札をそらで、ほとんど言える県民が約半数という結果に衝撃を受けた。上毛かるたは、群馬県民のアイデンティティの根幹を形作ってきたものである。このプロジェクトでは、上毛かるた競技県大会の優勝チームのメンバーが考えた夢を叶える企画などを実施し、上毛かるたを次の世代へと継承していくことに力を尽くしたい。

つる舞う (46分)



金子 渡 つる舞う (渋川市)

▶介護現場の生産性向上について

Q 介護ロボット等の導入に関する県の支援状況と、令和7年度に設置予定の介護生産性向上総合相談センター(仮)について伺いたい。

A 福祉局長 介護人材の不足が見込まれる中、増加する介護ニーズに適切に対応していくには、介護現場の生産性向上が重要である。介護ロボット等導入支援に集中的に取り組むため、本議会に3億9千万円の予算を計上した。また、令和7年度にワンストップの相談・支援窓口である介護生産性向上総合相談センター(仮)を設置し、介護現場の取組をサポートすることで全県的な生産性向上を強力に推進する。

▶職員の適正な人員配置と人材の確保について

Q 県民の生命と健康、暮らしを守る施策に取り組むために必要な職員の配置及び人材の確保について、県の考えを伺いたい。

A 総務部長 事業の見直しにより人員を捻出し新規・重点施策に振り向けることを基本としつつ、必要な範囲で増員するなど、各部局と丁寧に議論し適正な配置を検討している。人材確保では、特に獣医師などの技術職種で人材確保競争が激化している。このため令和7年度の試験から獣医師の試験において教養試験を廃止するなど、より多くの方が受験しやすい制度改革を行う。今後も現場の声に耳を傾け、適正配置及び人材確保に努めていく。



本郷 高明 リベラル群馬 (前橋市)

▶救急安心センター(#7119)^(※2)について

Q 事業の導入に至った経緯及び期待する効果について伺いたい。

A 危機管理監 他県において導入が進み、導入地域の住民アンケートで「役に立った」との回答が多かったことなどから、群馬県でも導入することで県民の安心・安全に資することになると判断し、予算計上した。効果としては、脳卒中や心疾患などの重症化する恐れがある傷病者に対して、相談を受けることにより、適正な救急搬送につながる事が期待できる。令和7年10月からの事業開始を予定している。

公明党 (39分)



水野 俊雄 公明党 (前橋市)

※1 ヤード…有償取引される金属スクラップ等の保管・作業を行う事業場。設置等に係る法令の規制がなく、一部での盗難等犯罪との関わりや生活環境への影響が問題化している
※2 救急安心センター(#7119)…急な病気やけがをしたとき、救急車を呼ぶべきか判断に迷った場合などに、看護師などからアドバイスを受けることができる電話相談窓口

活動紹介

特別委員会

約1年かけて検討・議論を重ねてきた4つの特別委員会から3月14日、知事あてに提言を提出しました。

■ 災害対応力強化に関する特別委員会

「災害対応力強化に関する提言」として、災害時の対応強化に関すること(医療・福祉含む)、防災・減災に関すること、災害レジリエンスの強化に関すること、県土強靱化に関すること、食料確保に関することなど、群馬県での大規模災害の発生を想定した災害対応力の強化に関する施策の推進に当たって取り組むべき41項目について提言しました。

■ スポーツ・文化の振興に関する特別委員会

「スポーツ・文化の振興に関する提言」として、スポーツの推進に関すること(eスポーツ含む)、湯けむり国スポ・全スポぐんまに関すること(施設整備含む)、健康増進に関すること、観光・温泉文化の振興に関すること、伝統文化の支援に関することなど、本県におけるスポーツ・文化の振興に対する施策の推進に当たって取り組むべき68項目について提言しました。

■ 循環型社会構築に関する特別委員会

「循環型社会構築に関する提言」として、ヤード問題やごみ問題などの廃棄物処理に関すること、再生可能エネルギー・グリーンイノベーションに関すること、森林資源の活用に関すること、有機農業等の環境負荷低減・資源循環型農業に関すること、物価高騰対策に関することなど、持続可能な循環型社会構築に関する施策の推進に当たって取り組むべき24項目について提言しました。

■ 次世代産業・人材確保に関する特別委員会

「次世代産業・人材確保に関する提言」として、次世代産業(デジタル・クリエイティブ産業)の振興に関すること、人材の確保・育成に関すること、交通イノベーションに関すること、人口減少対策・子育て支援に関すること、教育(非認知能力の育成、インクルーシブ教育)に関すること、多様性社会に関することなど、次世代産業の振興や人材確保に関する施策の推進に当たって取り組むべき35項目について提言しました。



群馬交響楽団

フルオーケストラ議場演奏



群馬交響楽団による議場演奏

第1回定例会の恒例となっている、県議会の本会議場をステージにした群馬交響楽団の「議場演奏」が、開会日の2月17日に行われました。

今年はフランツ・フォン・スッペ「喜歌劇《軽騎兵》序曲」や、ジャン・シベリウス「祝祭アンダンテ」など3曲が演奏され、議員のほか、傍聴に訪れた約70人の皆さんも聴き入りました。

「議場演奏」は、昭和32年3月定例会において、初めて演奏されて以来、今回で60回目となりました。